

普及活動情勢報告（平成20年10月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

皆で土着天敵の野外採取！



近所の河川敷で、皆で一斉に
野外採取。
「ここはクロヒョウタンが
多いな〜」

安芸地域で土着天敵（主にクロヒョウタンカスミカメ、コミドリチビトビカスミカメ）の野外採取がスタートした。

10月6日、安芸・川北環境勉強会とナス川北地区会を合同開催し（12名が参加）、伊尾木川の河川敷でクズやセイタカアワダチソウからふるい落とししながら土着天敵を探した。最初は「そんな小さい虫、よう探そうか〜」と心配していた農家も、段々と目が慣れてきたようで、土着天敵を発見するたびに「これもそうや!」と皆で盛り上がっていた。

現在、農業振興センターでは、「土着天敵採取にかかる手引き書」を作成・整備している。10月末まで野外採取が可能なので、各地区単位で採取会を開催し、農家が身近に感じられるIPM技術として、広く波及していきたい。

土着天敵産地間リレー（今度は安芸の農家が嶺北に採取へ）



土佐町の窪内勉さんと
熱心に情報交換

10月9日、農家4名で収穫終盤の土佐町（窪内勉さん圃場）にタバココナジラミの土着天敵であるクロヒョウタンカスミカメなどを採取に行った。

この取り組みは夏秋産地と冬春産地で土着天敵のやり取りを行い、効率的に害虫を防除するもの（本年6月末に嶺北は安芸へ採取にきた）。

今年で3年目となり、採取以外にも産地間の状況など熱心に情報交換が行われた。またこの日に合わせ、圃場主以外の農家がタバコカスミカメを採取し安芸の農家に提供してくれるなど活動が定着してきた。

これからも農業振興センター間で情報を共有しながら取り組みを支援していく。

今園芸年度のナス出荷が始まり、営農相談日もスタート！



「エコシステム申請の抜かりは
無いですか？」
「今からの時期は、こんな整枝・
摘葉で管理してください。」

安芸集出荷場で21園芸年度のナス出荷が本格的に始まり、昨年度から行っている「営農相談日」を10月17日から再開した（営農相談日：毎月17日に関係機関職員が集出荷場の前に立ち、農家への情報提供やお知らせを呼び掛け）。

今月のテーマは①10～11月の栽培管理ポイント、②各種事業への参加呼びかけ、③部会・エコシステムのお知らせ、④土壌溶液分析結果の個別報告の4点とした。

この取り組みを行って2年目に入るが、農家からも好評で、出荷後に立ち話をしていく農家も増えた。来月は物販陳列も行う予定にしているが、この営農相談日を活用して、さらに農家に有益な情報提供が行えないか、関係機関で前向きな検討を行っていききたい。

J A土佐あき東洋支所ナス研究会活動が始動



「まずまずの樹づくり！」

10月10日、J A芸東営農センターと農業振興センターが連携してJ A東洋支所ナス研究会現地検討会を開催した。

会では、生産者4戸の各圃場を巡回し、生育及び管理状況を確認しながら、互いの意見交換を行った。農業振興センターからは、「18tどり」達成のための11月までの栽培管理について説明した。参加者からは「一芽切り戻しのタイミングは?」「助葉の摘葉時期は?」といった質問があり、整枝・摘葉する箇所を示しながら指導を行った。

東洋町ではJ Aナス部会の活動が実質休止状態だったため、関係機関が呼びかけたところ、21園芸年度から「J A東洋支所ナス研究会」を発足し、活動を定期的実施することとなった。農業振興センターは、今後もナスの「18tどり」を中心に、まとまりづくりに向けて支援していく。

こうち型集落営農（北川村久府付集落）で中間報告会を開催



「集落のみんな協力して!!」

昨年、10月22日に設置した「久府付地区集落営農推進協議会（会長山嶋丈 委員数 9名）」は、13回の検討・議論を行い、目標：「孫子につなげる久府付集落の農業」を掲げ、その達成のため

- 1 久府付集落の農地を荒らさない、その為の仕組みを構築する。
- 2 話し合いを通じて協力し合う集落を目指す。
- 3 高齢者も含めてみんなが農業に参加できる集落営農を目指す。
- 4 久府付集落の農業は柚子、水稻、野菜の3本柱で考えていく。
- 5 集落の伝統を守っていく。

以上5項目の方針を定め、その具現化に向けた集落営農組織の設置についても報告を行い、参加者からは、「これからは、安心して農業ができる」、「早く組織を立ち上げて欲しい」等、期待する意見が出された。

農業振興センターとしても関係機関とともに地域の活性化に向け引き続き支援をしていく。

安芸集出荷場研究会活動が始動



「なるほど、まだまだ施肥管理を見直す余地があるなあ・・・。」

10月21日、安芸集出荷場総合部会が開催され、52名の生産者が参加した。

前半は、普通ナス、米ナス、ピーマン・シシトウ、ミョウガの4部会に分かれて、部会毎に現地検討会や土着天敵の野外採取、土着天敵温存ハウスの視察等を行った。

後半は、安芸集出荷場の会議室において、高知大学農学部の西村准教授による「収量・品質アップのための栽培管理」をテーマとした講演が行われた。光調整フィルムの有効性や、利用効率を上げるための施肥管理技術といった、通常の部会活動では得にくい専門的な情報がたくさん盛り込まれており、講演後は生産者から「土壌に吸着された肥料分を利用するには、どうしたらよいか」「散乱光型フィルムの普及程度は?」といった質問が活発に出された。次回の総合部会は、1月に実施する予定である。

女性達も出荷姿を目慣らし！



集出荷場で女性だけの目慣らし会。
熱心に、食い入るように研修され、
質問も多く出された。

10月22日、安芸集出荷場女性部による目慣らし会が開催され、32名の女性が集まった。集出荷場の選果ラインと荷造り作業を見学し、ナス・米ナス・ピーマン・ミョウガの出荷規格を確認し合った。その後は栽培管理のミニミニ講習として、農業振興センターから灌水・施肥量の基礎講習を行った。

さらに会終了後には、JA営農指導員の呼び掛けで、ナスの圃場2ヶ所の現地視察も行った。突然の提案にも係わらず、よそのハウスに入る機会が少ない女性達の関心は非常に高く、約半数の女性が参加して予想以上の大反響となった。

参加者からは「次は〇〇さんのハウスが見たい！」「女性達にも定期的に、目慣らしや栽培の勉強をする機会を作って欲しい。」などの積極的な要望が出され、今後の盛り上がりが期待できる活動となり、農業振興センターも引き続き支援をしていく。

安芸市環境保全型推進事業第2回勉強会を開催



天敵導入ハウス見学

平成20年度の第2回勉強会が、9月26日～10月9日の期間に、安芸市の6会場で開催された。(参加延べ人数60名)

この勉強会では、本園芸年度のスタート時に配布している「IPM栽培技術体系」を活用して、天敵を放飼する前・放飼時・放飼後の注意点や微生物製剤の使用方法について再確認した。また、これから注意しないといけない病害であるすすかび病対策についても学習し、その後、土着天敵温存ハウスや天敵をすでに導入しているハウスに移動し、現地研修を行った。

今後は、各自のハウスにおける天敵・病虫害の発生経過や農薬散布履歴を記録し、全員が共有できる資料を作成する予定となっている。